通説とは違った杉原千畝像描く

名城大の稲葉教授が出版

著書「ヤド・ヴァシェームの丘に」について話す稲葉教授＝中日新聞社で

ユダヤ人難民を救った「命のビザ」で知られる駐リトアニア領事代理の杉原千畝などの研究を手がける稲葉千晴・名城大教授（国際関係論）が二十六日、「ヤド・ヴァシェームの丘に」（成文社）を出版する。杉原千畝を含めて、さまざまな人々のユダヤ人救出劇について三十二の物語を紹介し、通説と違う杉原千畝像を描いた。

稲葉教授は日露関係が専門で、十三年前から杉原千畝に関する研究を開始。二〇一八年に県が名古屋市瑞穂区の瑞陵高校に整備した杉原千畝の顕彰施設「センポ・スギハラ・メモリアル」のパネル文を監修した。

今回の本は、リトアニアなど現地調査を重ね、当時の資料にあたり、まとめた。タイトル「ヤド・ヴァシェーム」は、イスラエルにあるホロコースト記念館のこと。「ホロコーストからユダヤ人を救った」とされる杉原千畝について「当時、リトアニアではホロコーストが起きていなかった」と指摘。杉原千畝に助けを求めたユダヤ人の多くはユダヤ教の神学生で、本では旧ソ連の迫害から救おうとした経緯をつづった。

「ただ結果的にホロコーストから救うことにつながったし、杉原千畝が人道的に素晴らしかったのは間違いない」と話す。本では、杉原千畝以外にポーランド人の農民やポルトガル外交官などさまざまな人が、当時ユダヤ人を救おうと尽力したことも紹介。「一つ一つの行為がそれぞれ貴い」と語った。（今村節）